

上サロベツ自然再生協議会について

サロベツ湿原には、低平地におけるわが国最大の「高層湿原」と、隣接する「海岸砂丘帯の砂丘林と長沼湖沼・湿原群」、「ペンケ沼と周辺の低層湿原」など、貴重な自然環境が残されている。しかし、周辺の土地利用の変化に伴い、湿原の地下水位の低下や乾燥化、地盤沈下が起き、高層湿原植生が減少してササやヨシ等が侵入するなどの現象が生じている。

平成14年度から、環境省、農水省、地元自治体、NPO、専門家等による「サロベツ構想策定検討会」が開催され、平成16年9月には、「サロベツ再生構想」が策定された。

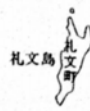
サロベツ再生構想が策定されたことを受け、平成17年1月に自然再生推進法に基づく「上サロベツ湿原自然再生協議会」を設立。

現在、全体構想を策定中。

第1回自然再生協議会（平成17年1月19日）

- ・ 環境省・国土交通省・農林水産省の地元機関、北海道庁、地元市町村、NPO、地元市町村、専門家等が参画して協議会を開催。
- ・ 構成員は、計59名・団体
- ・ 全体構想の策定方法について討議

上サロベツ自然再生



野川第一・第二調節池地区自然再生協議会について

趣旨

かつて小金井市の野川沿いは、田んぼが広がり国分寺崖線の湧水や森林等により、湿地や植生帯など多様な自然環境が広がっていたが、現状では、沿川の市街化や土地利用の変化により自然環境や多様性は大きく損なわれている。

このため、東京都は上記のような現状におかれている野川第一、第二調節池及びその周辺の野川において、かつての多様な自然環境を再生するとともに環境学習の場として活用することを目的とし、自然再生推進法に基づく「野川第一・第二調節池地区自然再生協議会」を設置し、河川環境の再生を図る。

この自然協議会では、当該地区の自然再生の全体的な方向性を定める「自然再生全体構想」を作成するとともに、実施者が作成する具体的な事業の実施計画の案について協議を行い、事業の実施及び維持管理に係わる連絡調整を行う。

かつての多様な自然環境を再生するために

- ・ 身近な自然の回復に向けて湧水などを活用した湿地等の再生を目指す。
- ・ 生物の良好な生息・生育環境を有する河川環境の保全に努める。

環境学習の場として活用するために

- ・ 川とのふれあいによる自然愛護意識の育成を図る。
- ・ 地域の小学校と総合的な学習の一環として連携する。

事業実施に際しては、東京都、地域住民、NPO、専門家、地元自治体からなる「自然再生協議会」を組織して連携し、構想づくりなどを行っていく。

第1回自然再生協議会（平成17年3月28日）

協議委員の構成

- 都民委員 29名（公募により決定）
- 団体委員 18名（NPO、市民団体の代表）
- 行政委員 8名（都及び小金井市）
- 学識経験者 2名 合計 57名



対象箇所の現況



野川第一調節池

地域の多様な主体が協議会を組織



自然再生の構想づくり

実施計画・モニタリングの検討

維持管理などの役割分担

情報交換



野川第一調節池（東側）



野川第二調節池



野川（小金井新橋下流）